

子どもが安心できる居場所づくり

「人を大切にしよう」という思い

学校が再開されたとき、ある学級では先生が児童たちに休業中にどんな思いで過ごしていたかを問い掛けました。

〈児童の声〉



- みんなどうしているかな
- みんなに会いたいな
- かかった子は大丈夫かな

また先生は、津市でも新型コロナウイルスに感染した子どもがいると知ったとき、どんなことを思ったかを聞きました。

〈児童の声〉

- 治ってから学校に行くとき、不安だろうな
- 感染した人を犯人みたいに捜している人がいるって報道があったけど、どうしてかな
- かかった人は、何も悪くないよな



先生は子どもたちの言葉とともに、その時の思いを学級通信に載せて発信しました。

～学級通信から～

新型コロナウイルスに感染してつらい思いをしている人たちを誹謗中傷したり、探ったりすることがどんなに愚かなことなのかを教えてくれたのは、子どもたちでした。子どもたちの心に芽生えた「人を大切にしよう」という小さな芽を、大切に守り育ててくださっている保護者の皆さんに、心から感謝を申し上げたいと思います。この芽が枯れないように摘まれないように、そして強く優しく、大きく育つように、私たちも人権感覚を磨き、しっかり生きていきたいと思います。

その先生は日頃から、さまざまな教材を使ったり日常の中で起こった問題を丁寧に取り上げたりしながら、自分の気持ちだけでなく、他の人の思いを考える時間を大切にしているそうです。

学校、保護者、地域が共に「人を大切にしよう」という思いを持ちながら子どもと関わっていくことにより、ここに紹介したような温かい心が育まれていくのではないのでしょうか。

あらためてみんなの宝物を知ることができました

緊急事態宣言下の9月、学校では、児童の安全と学びを保障するために、家庭と学校とをインターネットでつないだオンライン学習を実施しました。触れ合うことや関わること、みんなで集まって何か一つのことに取り組むことが制限される日が続きました。ある学校では、「お互いのことを知り合い、繋がりを深めること」にこだわった学習をオンラインでできないかを考え、取り組みを進めました。その一環として、ある学級ではお互いの宝物を発表し合いました。



〈児童の声〉



ぼくが最近のオンライン学習で楽しかったのは「私の宝物」です。理由は、みんなの宝物を知ることができたからです。あらためて、みんなの宝物を知ることができて、みんなにも大事なものがあるんだなと思いました。同級生でも知らないことがあったので、また友達のことを知ることができる授業がしたいです。

また、この学級では緊急事態宣言の解除後、授業参観の日に「みんなに聞いてほしい、嬉しかったこと」を話す交流会を行い、お互いのことをもっと知る機会をつくりました。保護者からは「子どもたちがうれしそうに自分のことを伝え合う姿を見ることができて良かったです」という声が寄せられました。